

少人数教育の充実に向けた取組

【南会津教育事務所】

学 校 名	檜枝岐村立檜枝岐小中学校
学年・教科等	全学年・全教科

南会津教育事務所学校教育課だより



南会津だからこそできる教育

檜枝岐村立檜枝岐小中学校の取組

○ ストロングポイントを生かす

◎「ICTを活用した授業」

檜枝岐小中では、デジタル教科書等を積極的に活用し、視覚的に訴える指導の効果を高める指導に取り組んでいます。

・学習意欲を高める課題提示

デジタル教科書を効果的に活用し、わかりやすい提示と興味・関心・意欲を高める授業を行っています。



・発表活動での活用

実物投影機を使用して、自分の考えを発表したり友達の考え等に対し、自分の考えを示しながら発表したりするなど、練り上げ活動で有効に活用しています。



◎水芭蕉プラン「小中一貫教育の推進」

小中一貫教育を進めるにあたり、「4・3・2」を基本に計画しています。9年間を見通した各教科の系統性を図った計画を作成し、学習、生活指導にあたっています。

- ・4（小1～4年）→基本的生活学習習慣を身に付ける。

※「ほめる」体験による満たされる経験
※自分を嫌いにしない指導

- ・3（小5～中1）→自分の可能性を伸ばす。
※教科の特質に触れる→教科担任制
※序列化からの脱却

- ・2（中2・3）→自立・学力向上・自己実現
※15の春のために



◎「小中一緒に縦割り班活動」

ファミリー班と称して、異年齢集団での活動を位置づけ、思いやりの心、協力、効果的な「たてとよこの関係づくり」を図っています。

・ファミリー班によるランチタイム

日課表を工夫し、小中学生と一緒に給食をいただきます。



・ファミリー班による学校行事等

助け合い、協力等を実践する場を学校行事の中に位置づけています。

その他、児童会生徒会活動や週番活動においてもファミリー班での活動を行っています。



<異学年での活動>

◎地域の特色を生かした「直接体験」

・「伝統芸能・文化の継承」

地域に伝わる伝統文化を継承するための活動を教育活動に取り入れています。また、そのために地域の人材を積極的に活用しています。

小学生は、中学生の姿を見て、将来の自分の役割を自覚しています。



<歌舞伎の練習>

・「地域の学習資源を生かした学習」

地域の自然に親しむ活動を位置づけ、自分の生まれ育った地域のよさを味わう活動を行っています。



- ・小学生 尾瀬一泊体験
- ・中学生 至仏・燧ヶ岳 駒ヶ岳一泊登山

○ ウィークポイントを克服する

◎「少人数指導の充実」

域内で児童生徒数が最も少ない檜枝岐ですが、複式を解消し、授業を行っています。体育科などたくさんの方の学習が効果を期待できる教科では合同での学習を進めています。

・ICTの積極的活用

徹底した教材研究で授業を行っています。互いに授業を参観する機会を設けています。

・見取りと評価

少人数の利点を生かし、個々のつまずきなど丁寧に見取り、指導に生かしています。

また、自力解決の時間は十分に保障し、自分で解決することの大切さも指導しています。



◎「ブロック・中学校教諭による教え合い体制」

・中学校教員による小学校教科担任制

授業に参加できる体制づくりを行っています。

小4・6 社会科

小5・6 外国語活動

小5 算数科・体育科

小6 理科 <中学校教員による小学校での授業>

・中学校教諭の積極的な小学校訪問指導

中学校の教員が教科の専門性を発揮し、指導助言を日常的に行っています。

・講師の指導を隣接学年教諭が応援・支援・指導

講師の先生の授業力向上のために、各学年ブロックの教え合う体制を整備しています。



◎「小中連携の授業研究」

小学校と中学校が合同での授業研究を実施し、互いに意識改革を図っています。

・中学校の専門性を生かした検討会

中学校の先生にあっては、教科指導の専門性を生かした発言を行うようにしています。

・問題解決のストラテジー

小学校から中学校までの指導内容について共通理解を図り、系統性を意識した指導を行っています。特に学年ごとの算数的活動を整理し、効果的な指導を戦略的に行う取組をしています。

・横断的指導内容の共通理解

板書の際、算数科の授業であっても筆順を意識した板書に努め、国語科の内容も算数科等の授業で行う横断的な指導を行っています。

・仮説検証型授業研究による指導力向上

検証の視点を絞り、焦点化した検討を行っています。その他のよかった点については学年ブロック内での教え合い機能を生かし高め合っています。



<小中合同での授業研究会>

◎「小中教員の連携」

学習面だけではなく、生徒指導面での指導においても効果的に連携を図っており、そのため、不登校の出現はゼロとなっています。

・生徒指導の連携

⇒ 小中一緒の活動の中で、中学校の様子を見て小学校が做う環境ができています。小学生は、自分が中学生になった姿を想像して行動しています。

・小中連携した組織

⇒ 生徒指導委員会・就学指導委員会・保健給食委員会他、小中で共通理解をもって指導にあたっています。

・小中9年間で育てる意識

⇒ いわゆる「15の春」を見据え、学習面の系統性だけではなく、自己管理能力を育てるために「24の力」を設定し、指導しています。



<社会的自立と夢の実現「24の力」>

檜枝岐小中学校は、これらの取組により、子供たちは「学校に行くのが楽しい」と感じ、「日々の学校生活（授業・行事他）」が充実してきています。そして、このことが「学力の向上・落ち着いた生活」につながっています。図式すると以下ようになります。

これらの取組を進めるために「チームひのえまた」として、職員室力を高めていることも、大切にしたいです。

